

令和8年7月2日

報道機関 各位

**共同研究契約締結のお知らせ
～外来患者を対象としたコミュニケーションアプリ等を用いた伴走支援モデルの検討～****■ ポイント**

- ・富山大学、東京大学及び富山県の3機関が「外来患者を対象としたコミュニケーションアプリ等を用いた低負荷で継続可能な伴走支援モデルの検討」を行う共同研究契約を締結（令和8年6月4日付け）
- ・共同研究を通じて、臨床研究のデジタルトランスフォーメーション（DX）の推進、患者に寄り添う新たな支援モデルの構築

■ 概要

この度、国立大学法人富山大学、国立大学法人東京大学及び富山県は「外来患者を対象としたコミュニケーションアプリ等を用いた低負荷で継続可能な伴走支援モデルの検討」に関する共同研究契約を締結しました。本共同研究を通じて、臨床研究のデジタルトランスフォーメーション（DX）を推進し、患者に寄り添う新たな支援モデルの構築を目指します。

■ 共同研究の背景

本共同研究は、富山県が推進する産学官連携の枠組みである「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造コンソーシアム（富山くすりコンソ）における研究テーマ「分散型臨床試験の実施に向けた臨床研究のデジタルトランスフォーメーション」の一環として実施されるものです。

近年、通院治療を継続する患者の多くは、治療に伴う様々な身体的・精神的な苦痛や、日常生活における心理的負担を抱えており、これらを日常的に軽減するためのサポートが求められています。そこで、患者の日々の生活の質（QOL）の維持・向上の観点から、患者の心理的負担をやわらげる低負荷で継続可能な「伴走型患者支援」を実現するため、本共同研究を開始することとなりました。

■ 共同研究の主な内容

日常的に利用しやすいコミュニケーションアプリ等のデジタル技術を活用した伴走支援モデルの設計・試作及び有用性の検証を行います。開発の機密性を考慮し詳細なアプローチは非公開としますが、両大学の強みを生かし、以下の役割分担で共同開発を進めます。

- ・富山大学：医療職へのインタビューやアンケート調査等を通じた患者ニーズの把握及び医療現場における課題の整理。臨床試験を通じた有用性評価
- ・東京大学：医療現場の状況を踏まえた、先進的情報技術を活用した伴走型患者支援モデ

ルの設計及びアプリの試作。有用性検証に係る技術的評価

本共同研究では、開発したアプリを用いて患者を対象とした臨床試験を実施するとともに、将来的にはアプリの社会実装（製品化）を目指します。

■富山大学 研究者のコメント

学術研究部医学系 講師 梶浦 新也

（緩和医療専門医/指導医、がん薬物療法専門医/指導医 ほか）

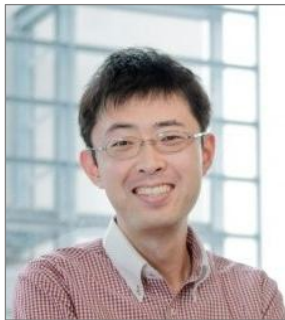


「通院治療を継続する患者さんにとって、日々の病状や生活上の悩み、それに伴う心理的な負担は非常に大きな問題です。本研究を通じて、日常の中で患者さんにそっと寄り添い、負担をやわらげることができるような支援モデルを、医療現場のリアルな声をもとに構築していきたいと考えています。」

■東京大学 研究者のコメント

大学院情報理工学系研究科 教授 矢谷 浩司

（人間とAIの協調等によるウェルビーイング支援研究の専門家）



「情報技術が人々のウェルビーイングに貢献できる領域は日々広がっています。本共同研究では、最新のヒューマン・コンピュータ・インタラクションの知見を活かし、患者さんが直感的に使いやすく、心の支えとなるようなデジタル支援ツールの設計・開発に尽力いたします。」

■富山くすりコンソとの協働について <https://kusuri-consortium.jp>

富山くすりコンソは富山県内の大学・研究機関や製薬企業が連携し、医薬品産業の発展を目指す産学官共創プラットフォームとして、医薬品分野の研究開発と人材育成を推進しています。これまでに、富山大学における臨床試験実施体制の高度化・効率化を支援し、富山大学では初となる医師主導治験などの実績を共同で積み重ねてきました。

本共同研究は、富山くすりコンソの研究開発補助金「実用化総合支援プログラム」の支援を受けて取り組まれています。

【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学附属病院臨床研究開発推進センター
センター長・教授 中島 彰俊、副センター長・特命教授 寺元 剛
TEL : 076-434-7154
Email: tymshien@med.u-toyama.ac.jp

東京大学大学院情報理工学系研究科
教授 矢谷 浩司
Email: koji@iis-lab.org